日本創造学会
Japan Creativity Society

JCS NEWS LETTER

第48回日本創造学会研究大会

2026/10/24(土)-10/25(日)ハイブリッド開催

大会テーマ:「知識創造理論の進化」
探求～T型人材の“横”に焦点をあてた横断型人材の育成～

森田純恵実行委員長

尾澤知典実行委員

白坂成功実行委員

野中朋美実行委員

基調講演１：紺野登氏
日本創造学会フェロー　Japan Innovation Network（JIN）Chairperson理事

「イノベーションを生みだす知識生態系と横断的知性」
～組織的知識創造の展開とイノベーションマネジメントシステム～

基調講演2：坂本修一氏
北陸先端科学技術大学院大学 産学官連携客員教授　イノベーション教育学会リエゾン
「横断型人材の育成活動に関する現状と社会経済的文脈での活動効果の分析の必要性」

パネルディスカッション：知をつなぎ、未来を創る

ファシリテーター　永井由佳里氏　北陸先端科学技術大学院大学理事・副学長 日本創造学会フェロー・評議員長

パネリスト
- 紺野登氏　●坂本修一氏
- 廣瀬文乃氏　政策研究大学院大学教授 立教大学経営学部兼任講師
- 尾澤知典氏　日本創造学会理事 慶應義塾大学大学院SDM研究科特任研究員 横浜市立小学校教諭

大 会 要 項

【参加方法】参加申込（懇親会・送迎申込含む）は10/1まで下記URLより受付いたします。
10/2以降も事務局へのメールで受付いたしますが送迎申込はできません。懇親会は10/20締切。
申込予約なしでの当日参加もできますが、当日料金となります。

参加申込URL：https://conf.japancreativity.jp/
参加のみの場合でも、まず「発表者アカウントの作成」を行ってください。その後、画面上部の「参加登録」メニューから、必要事項を入力して登録していただきます。

【共催/後援】共催：秋田県立大学　後援：文部科学省
【大会情報】　https://www.japancreativity.jp/report/conferences/conference2026/
【会　場】秋田県立大学 秋田キャンパス　メイン会場：図書メディア棟・講堂（大ホール）
住所：秋田県秋田市下新城中野字街道端西241-438
【受　付】両日とも共通棟正面入り口に設置
【内　容】講演会、パネル討議、一般発表（口頭発表・インタラクティブポスター発表）
懇親会（会場：秋田駅周辺）、学会賞表彰式、総会報告、写真撮影 等
【開催方法】ハイブリッド開催（24日のインタラクティブポスター発表は対面のみ）
【参 加 費】事前振込　学生（会員/非会員同額）2,500円、正会員3,000円、非会員4,000円
当日参加（共通）5,000円※現金のみ
【懇親会参加費】学生会員2,000円、社会人学生会員5,000円、正会員5,000円、非会員5,000円
【大会予稿集】 研究大会予稿集はPDF(ダウンロード）で事前配布

【秋田キャンパスへのアクセス】
秋田空港から車で約1時間、秋田駅から車で約30分、秋田駅から追分駅までJRで約15分、 追分駅から徒歩20分

10/24（土）DAY 1
秋田空港をご利用の方：以下の到着便に合わせて、秋田空港から秋田県立大学秋田キャンパスまでマイクロバスをご用意します。～8:50 秋田空港着（ANA）11:30 秋田空港着（ANA／JAL）各便の到着後、参加者がそろい次第、秋田県立大学秋田キャンパスへ出発します。
秋田駅をご利用の方：秋田駅から秋田県立大学秋田キャンパスまでは、3～4名でタクシーに乗り合わせていただくか、レンタカーを各自で手配していただきますようお願いいたします。　DAY 1 終了後研究大会終了後、17:15頃に秋田県立大学秋田キャンパスを出発し、秋田県立大学秋田キャンパス → 秋田駅 → 秋田空港の順にマイクロバスでお送りします。
10月25日（日）DAY 2
秋田駅から秋田県立大学秋田キャンパスへ8:00に秋田駅を出発し、秋田県立大学秋田キャンパスまでマイクロバスでお送りします。
DAY 2 終了後（13:30出発）大会終了後、13:30に秋田県立大学秋田キャンパスを出発します。
① 秋田駅方面へお帰りの方は秋田県立大学秋田キャンパスから秋田駅まで、タクシーに乗り合わせて移動していただきます。② 秋田空港をご利用の方秋田県立大学秋田キャンパス → 秋田空港までマイクロバスでお送りします。
※詳細な集合場所等については、参加者が確定した段階で改めてご案内いたします。

【宿　泊】

研究大会　推奨ホテル

1	ホテルアルファーワン秋田
2	リッチモンドホテル秋田駅前
3	こまちの湯　ドーミーイン秋田
4	ダイワロイネットホテル秋田駅前
5	ＡＮＡクラウンプラザホテル秋田　ｂｙ　ＩＨＧ
6	東横ＩＮＮ秋田駅東口
7	メトロポリタン秋田

全体スケジュール

10月24日（土） Day1 ハイブリッド開催

12:30	受付開始
13:00-13:10	開会挨拶 秋田県立大学 理事長　福田裕穂
13:10-14:30	基調講演 ２本
14:45-15:30	パネル討議
16:00-17:00	インタラクティブポスター発表（対面発表）
18:30 ~	秋田駅周辺で懇親会

10月25日（日）Day2 ハイブリッド開催

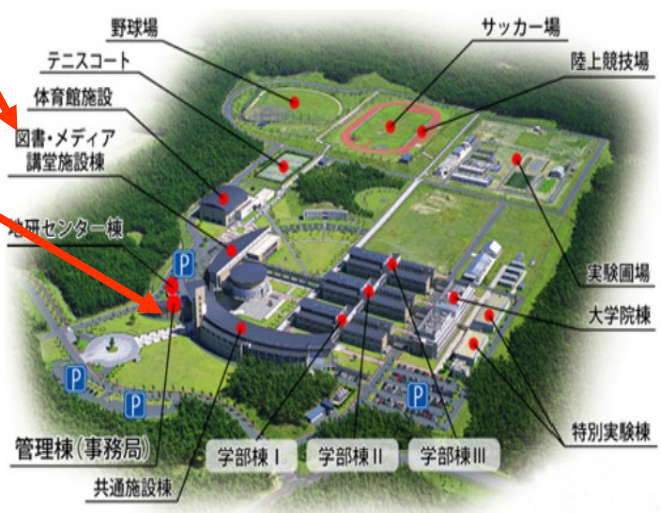
9:00	受付開始
9:30-12:30	論文口頭発表 (対面・オンラインハイブリッド発表) 一般発表20分間 質疑含 学生発表15分間 質疑含
12:30-12:45	投票・総会報告・学会賞表彰式
12:45-12:55	閉会挨拶 日本創造学会 理事長　三浦 元喜
12:55-13:00	集合写真撮影　解散

※会場では飲食施設や売店は営業しておりません。

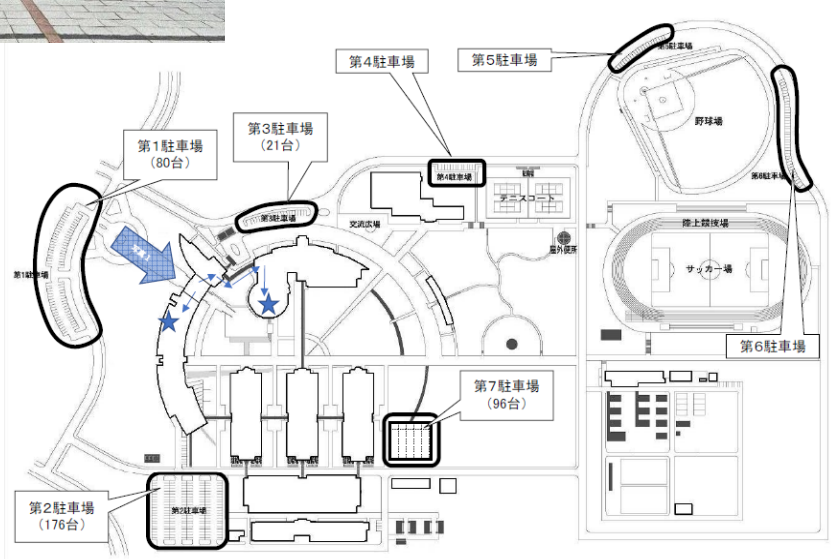
キャンパスマップ

会場：図書・メディア棟

受付：共通棟正面入り口



駐車場案内図



発表タイムテーブル

10/24インタラクティブポスター発表時間 (16:00-17:00) A212(大)

1-1森田純恵　1-2小俣幸紀　1-3長谷川広泰　1-4古川洋章　1-5尾崎弘之　1-6辻 俊幸　1-7河野太郎　1-8三浦元喜
1-9尾澤知典　1-10人見健三郎　1-11片山 立

10/25登壇発表タイムテーブル (9:30-12:30)

A212(大)				A211(中)				A210(小)			
座長　古川洋章				座長　野中朋美				座長　尾澤知典			
学生	2-1	武田 諒	9:30	学生	3-1	小國 美貴	9:30	学生	4-1	Huang Lingjie	9:30
	2-2	小笠原 裕	9:45		3-2	松田 空	9:45		4-2	熊谷 彩乃	9:45
	2-3	片倉 健	10:00		3-3	明田 知之	10:00		4-3	簑添 智哉	10:00
	2-4	今村 新	10:15								
休憩											
一般	5-1	豊田 貞光	10:50	一般	6-1	脇田 健一	10:50	一般	7-1	古田 彰一	10:50
	5-2	伊藤 翼	11:10		6-2	今泉 竜	11:10		7-2	島 青志	11:10
	5-3	小粥 幹夫	11:30		6-3	田村 新吾	11:30		7-3	髙橋 誠	11:30
					6-4	石井 力重	11:50		7-4	片岡 敏光（オンライン）	11:50

発表プログラム　セッション1

セッション１
インタラクティブポスター発表
発表日時：10/24　16：00～17：00　於：A212（大）

発表番号	氏名	発表タイトル	所属
1-1	森田 純恵　他	異分野横断型知識創造からエコシステム形成へ～ IM_Lab の実践データによる形成プロセスとボトルネックの考察～	秋田県立大学
1-2	小俣 幸紀　他	生成 AI によるソリューションアイデアの具体化手法	三菱電機株式会社情報技術総合研究所
1-3	長谷川 広泰	問い中心型外部スキャフォールドによるAI創造性の統計的検証——KIS-Genesisは廉価AIモデルを最上位モデルの水準まで引き上げるか	未来図Lab工房
1-4	古川 洋章	異なる専門的視点の付与が大規模言語モデルによるアイデア評価に及ぼす影響	北九州市立大学
1-5	尾崎 弘之　他	創造性と効率性を両立するイノベーション・マネジメントシステム（IMS）～組織的イノベーションを推進する原則と実践アプローチ～	一般社団法人Japan Innovation Network
1-6	辻 俊幸　他	潜在感情の引き出しのための手法	秋田県立循環器脳脊髄センター
1-7	河野 太郎　他	SF 映像/小説の体験がニーズ・解決策の発想の量と質に及ぼす影響の検証―マインドワンダリングの影響を考慮した推定統計による探索的仮説形成―	トヨタ自動車株式会社未来創生センター
1-8	三浦 元喜	「共通テスト「情報 I」の問題を題材にした卒業論文執筆練習手法の提案と実践	千葉工業大学
1-9	尾澤 知典　他	情報の収束場面における階層的構造化を支える足場かけ―小学校高学年児童を対象としたワークシートと生成 AI の比較―	慶應義塾大学
1-10	人見 健三郎　他	企業内創発活動リーダーの経験は本来業務にどのように再文脈化されるのか	三菱電機エンジニアリング株式会社
1-11	片山 立	在り方とこころの可視化に基づく創造のためのアプローチ～試行錯誤のサイクルを「螺旋的深化」へ導く多元的フレームワーク～	夢・アーキテクティング工房

発表プログラム　セッション2～4

セッション２
学生発表１（15分）
日時：10/25　9：30～10：30　於：A212（大）

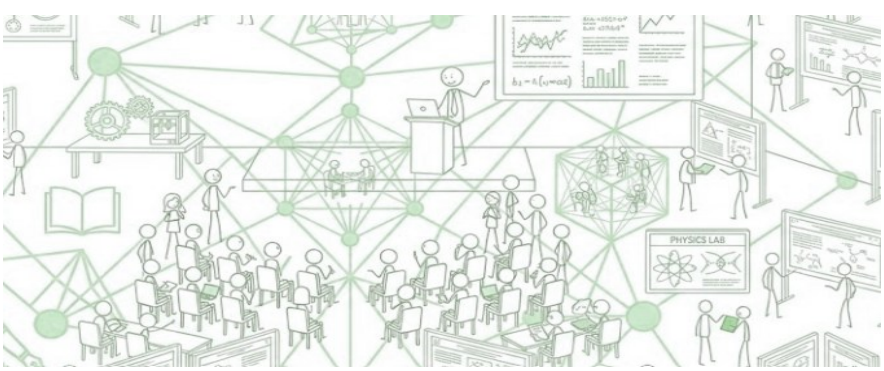
発表番号	時間	氏名	発表タイトル	所属
2-1	9:30 -9:45	武田 諒　他	人の介入を「清掃機会」に変える掃除ロボット― Human-in-the-Loop による人・ロボット協調の提案 ―	秋田県立大学
2-2	9:45 -10:00	小笠原 裕　他	問いを通じた IT 課題のリフレーミングプロセスに関する研究 ―生成 AI 経営者との対話における IT コーディネータ有資格者・学習者の問題再構成と仮説更新―	法政大学イノベーションマネジメント研究科
2-3	10:00 -10:15	片倉 健	システム仕様書を発想の起点として活用する手法	慶應義塾大学SDM研究科
2-4	10:15 -10:30	今村 新　他	「企業内で育てる」日本型人材育成と社会人の自発的大学院進学 ―博士進学の評価・支援・活用に関する課題探索―	北陸先端科学技術大学院大学

セッション3
学生発表2（15分）
日時：10/25　9：30～10：15　於：A211（中）

発表番号	時間	氏名	発表タイトル	所属
3-1	9:30 -9:45	小國 美貴	地域外人材との協働によるDX化－小松市西俣キャンプ場を事例に	公立小松大学
3-2	9:45 -10:00	松田 空　他	山形県における地方再生に向けた提案と検討	千葉工業大学
3-3	10:00 -10:15	明田 知之	IT プロジェクトマネージャーのメンタル不調経験過程の可視化	法政大学

セッション4
学生発表3（15分）
日時：10/25　9：30～10：15　於：A210（小）

発表番号	時間	氏名	発表タイトル	所属
4-1	9:30 -9:45	Huang Lingjie　他	生成 AI を使うと、なぜアニメファンは反発するのか― 動画生成 AI のアフォーダンスに関する考察と情報開示戦略 ―	法政大学イノベーションマネジメント研究科
4-2	9:45 -10:00	熊谷 彩乃	「仮想的多様性」によるアイデア創出支援～意味的距離の設計と論争性評価の予備観察～	慶應義塾大学SDM研究科
4-3	10:00 -10:15	簑添 智哉	日常的に行うフィクション創作の探索的研究	横浜国立大学



発表プログラム　セッション5～7

セッション5
一般発表1（20分）
発表日時：10/25　10：50～11：50　於：A212（大）

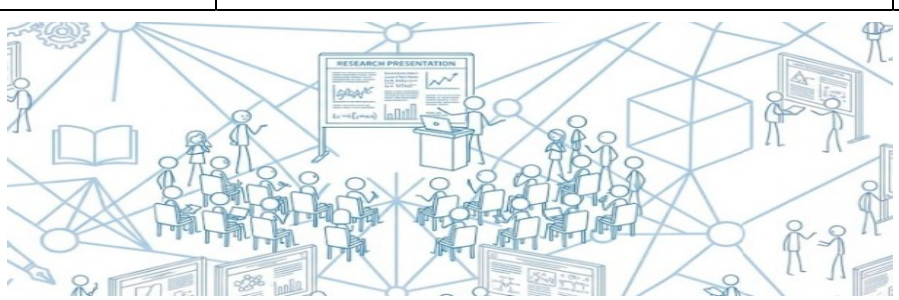
発表番号	時間	氏名	発表タイトル	所属
5-1	10:50 -11:10	豊田 貞光	FIFA ワールドカップ 2026日本代表かく戦へり ～地政学・チームビジョン・パフォーマンスからの考察～	トヨサダ研究所
5-2	11:10 -11:30	伊藤 翼　他	低尤度を理由に自ら棄却した発想の回収 ― 安全上の問題を題材とした手法の提案と予備的評価―	慶應義塾大学SDM研究科
5-3	11:30 -11:50	小粥 幹夫	知識から知へ新たな学びの方向	ひとつなぎの会

セッション6
一般発表2（20分）
発表日時：10/25　10：50～12：10　於：A211（中）

発表番号	時間	氏名	発表タイトル	所属
6-1	10:50 -11:10	脇田 健一	組織風土が創造性発揮に及ぼす影響 ―開発・設計 3 部門 15 課を対象とした探索的分析―	三菱電機エンジニアリング株式会社
6-2	11:10 -11:30	今泉 竜　他	R.I. method に基づく対話的イノベーション AI の開発と事例分析	株式会社わ
6-3	11:30 -11:50	田村 新吾	縄文アートが未来に続く	クラブ・ジョーモニア
6-4	11:50 -12:10	石井 力重	AI 対話に何を挟むか ― 高回転対話・デジタル摘録・手書き記録による創造体験の違い ―	アイデアプラント

セッション7
一般発表3（20分）
発表日時：10/25　10：50～12：10　於：A210（小）

発表番号	時間	氏名	発表タイトル	所属
7-1	10:50 -11:10	古田 彰一	創造は淘汰のある場所で起きる ――モード崩壊を突破する発想支援手法QVP	株式会社ProAI
7-2	11:10 -11:30	島 青志　他	AI 時代に求められる横断（横棒）型教育評価手法「高校入試を起点とした STEAM 評価ルーブリックの提案」	慶應義塾大学大学院SDM研究所
7-3	11:30 -11:50	髙橋 誠	羊グッズの種類と国別の特徴－各国の風土と文化が創造した羊グッズ－	創造開発研究所
7-4	11:50 -12:10	片岡 敏光　他	知財ミックス獲得を目指した水泳トレーニング方法＆教習具の開発（その２）	株式会社パットブレーン



2026年度日本創造学会学会賞受賞者の皆様

学会賞を受賞された皆様おめでとうございます。授賞式は10月25日の研究大会会場で執り行われます。

（敬称略）

日本創造学会論文誌Vol.29 論文賞	三冨 敬太、白坂 成功	プロトタイプが呼び覚ます記憶 プライミング法を用いた共創促進手法の提案と検証
日本創造学会論文誌Vol.29 論文賞	安田 剛規、内平 直志 西村 拓一	イノベーション・チャンピオンと共創するフォロワー人材の動機と資質
第47回研究大会発表賞	古川洋章	評価者の癖を模倣した推論型LLM は人間のアイデア評価にどこまで近づけたか？
第47回研究大会ポスター発表賞	平沼智康	創造性の促進・阻害及びレジリエンスのメカニズムの探索的研究 ―非クリエイティブ職のビジネスパーソンを対象として―
第47回研究大会ポスター動画発表賞	加藤美亜	中心光の輝度コントラスト変化が認知状態の揺らぎ及びはっとするエクスペリエンスに与える影響
第47回研究大会留ポスター発表 立石賞 留学生大阪万博参加支援企画	マンライオルシフ　オロントヤ サロールエル ネ アマルジャルガル	世界を学びお互いを知る－大阪万博が生む地域と世界の創造性－

▲▼▲第93回・第94回クリエイティブサロン開催報告▲▼▲

第93回の各講演の動画は記載のURLより視聴できます。

平沼智康氏の講演URL https://youtu.be/-_aBV_sLsPk

安松健氏の講演URL https://youtu.be/-bBrMqONM2Q

古川洋章氏の講演URL https://youtu.be/QCazqch_f8k

三浦元喜氏の講演URL　https://youtu.be/sNp6BspUBGs

※片倉健氏の講演は都合により非公開とさせていただきます。

生成AI時代に必要な「目利き力」とは何か

—— 構造化し、不足を言語化する思考 ——

尾澤知典
日本創造学会理事
慶應義塾大学大学院
システムデザン・マネジメント研究科特任研究員

近年、生成AIの急速な発展により、私たちの知的活動のあり方は大きく変化している。文章作成、アイデア生成、情報整理など、これまで人間が担ってきた多くの知的作業が、生成AIによって支援・代替されるようになった。複雑で多量な情報も、短時間で整理しアウトプットしてくれる。このような状況の中で、「これから人間に必要な力とは何か」という問いが広く議論されている。

これまでの議論から、価値判断、目的設定、意味づけ、責任といった領域は、依然として人間が担うべき重要な役割であることが明らかになってきた。本稿ではさらに、これらの項目を活用の場面から「目利き力」と捉えてお話したい。

目利き力とは、生成AIが出力した内容に対して、次の二つを行える力である。

① 対象を構造化し、不足箇所を見つけることができる力

② 不足箇所を言語化し、生成AIとともに改善できる力

なぜ「目利き力」なのか。生成AIは、もっともらしい答えを出してくる。流暢であることと、正しく十分であることは別である。だからこそ、出てきたものの良し悪しを判断できる力が必要になる。その土台となるのが、その分野に関する深い知識である。深く知っているからこそ、整って見える答えの違和感に気づき、対象を構造化して欠けている箇所を見定めることができる。そして、その箇所を言葉にして生成AIに伝え、やり取りを通じて精度を上げていく。これらの力を持たなければ、AIの出力の粗がそもそも見えない。生成AIからのアウトプットを「すごい、完璧だ」と受け取って終わる人と、「ここが足りない」と返せる人。現在の生成AIの精度からすると、この差がAIを活用できるかどうかの判断基準になるだろう。

生成AIは、これまで暗黙的であった思考のプロセスを人間に意識づけ、可視化し、操作可能にするきっかけを与えてくれる。したがって、これからの教育や人材育成においては、思考の材料としての知識を蓄えるとともに、思考の仕組みを意図的に意識して取り扱うことが重要になるだろう。対象を木の視点で一つ一つクリティカルに見て、それらの木が互いにどのように関係づけられて森を形成しているのかを捉える。この木の視点と森の視点を往復させることで、「目利き力」は磨かれていく。生成AI時代とは、「考えを委ねる時代」ではなく、いかに意図的に考えを仕掛けていくかが問われる時代なのである。

その往復を支えるのが、思考様式である。筆者は、対象を要素に分解し、要素と要素をどう結びつけるかという場面で働く、抽象と具体、類推、目的と手段、アブダクションといった思考様式に着目して研究を進めている。興味深いのは、これらが情報を整理するためだけの道具ではないという点である。要素の結びつけ方を変えれば、そこから新しいアイデアが生まれる。構造化は、整理の技術であると同時に、発想の手がかりでもある。現在は、この思考様式を幅広い年代が身につけられるようにするための教育コンテンツを構想している。

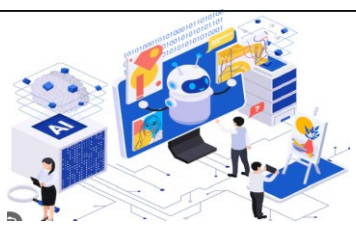
そう考えると、日本創造学会が積み重ねてきた知見の意味が見えてくる。発想法や創造技法、創造性教育、創造的問題解決（CPS）等の研究に共通するのは、暗黙の思考を、発散と収束、構造化、評価といった扱える形に開いてきた点である。これは目利き力が求める「構造化」と「言語化」の技術そのものだ。発散の速度と量はAIが担えても、目的設定、問いづくり、価値判断は人間に残る。学会の知見は、AIへの問いを設計する道具として、また案を評価する物差しとして使える。これを人とAIの協働の文脈で捉え直し、実務や教育で使える形にすることで、これからも社会に貢献できるはずである。

新 入 会 員 紹 介

入会者（入会順）

氏名	会員種	所属	住所	専門分野
坂本　修一	正会員	文部科学省 北陸先端科学技術大学院大学	東京都	イノベーション教育 産学官連携政策
今泉　竜	正会員	株式会社わ	東京都	イノベーションのコンセプト設計 認知科学 AI 思考法 発想法
鈴木　勝之	正会員	桃山学院大学	奈良県	問題解決 システム開発　ビジネス戦略
小出　道夫	正会員	MG design	福岡県	個人のビジョン発見とジュエリーデザインの統合 創造的思考を応用した現代アートの制作
古田　彰一	正会員	株式会社ProAI	東京都	創造技法 発想支援（生成AI活用）
齋藤　都美	正会員	駒澤大学	東京都	産業組織論（経済学） 公共経済学（経済学）
小俣　幸紀	正会員	三菱電機株式会社	神奈川県	空気調和設備 クラウドコンピューティング
尾崎　弘之	正会員	一般社団法人 Japan Innovation Network	東京都	イノベーション・マネジメント 組織変革
辻　俊幸	正会員	秋田県立循環器脳脊髄センター	秋田県	経営　DX　AI

会員の 記事紹介



『日経研月報』2026年8-9月号
シリーズ「AI×〇〇」第6回
タイトル：生成AI技術だけでは生産性は向上しない ～「組織改革」が分水嶺となる理由～
安松 健 （やすまつ けん）日本創造学会理事
株式会社エボルブ Chief Assemblage Officer／大阪教育大学理数情報教育系 特任准教授

記事URL:　https://www.jeri.or.jp/survey/202608-09_14/

一般財団法人日本経済研究所の『日経研月報』に掲載された記事では、生成AIの導入だけでは企業全体の生産性向上には結びつかず、その成果を分ける分水嶺として「組織改革」が不可欠であると解説されています。タスク単位での効率化が全体最適に直結しない背景には、生成AIに対する本質的な理解や活用体制の不足が存在します。詳細については、日本経済研究所月報をURLよりご覧ください。

事務局メッセージ

創造のきっかけは、思いがけない出会いや、異なる視点とのふれあいの中に生まれるものかもしれません。研究や実践を通して知を深めるだけでなく、互いの経験や思いを語り合うことも、創造学会ならではの大切な営みです。第48回大会は秋田県立大学で開催されます。新たな出会いと対話から、どのような創造が生まれるのでしょうか。皆様とお会いできることを楽しみにしています。
（事務局：比嘉）

日本創造学会 ニューズレター
2026年9月発行（№3）
日本創造学会事務局
発行人 ：三浦元喜
編集担当：比嘉由佳里
〒272-0031 千葉県市川市平田
1－10－2
Tel 080－3465－6152
e-mail：jcs-info@japancreativity.jp
http://www.japancreativity.jp/